教えるというより、育むという大人側の意識こそ重要

育てる、教えるというよりは、生徒、学生の内面にある生きようとする自らに気づき、それを自ら育み、そのための考えるヒントを提示したり支援するという大人側の意識が重要でないかと考えている。
そうした係わり合いにこそ、彼らの自主性、主体性、積極性が育まれるものと考えている。

後期のある学校での授業が始まった。
これからの授業への構えを持ってもらいたく、最初の授業日に工夫しつつ語りかけたところ、次に類するようなたくさんの感想（抜粋）をいただいた。

・知識がどれだけあったとしても、自分がそれを活かすことができなければ意味がない。
“求める知識は知恵となる”、この大切さを学び、また、それを如何に自分の考えを踏まえて伝えていけるか、自分の言葉でどれだけ伝えられるかの大切さを学びました。
生きることはどういうことか、私はそのことについてあまり考えたことがありませんでした。
当たり前のように年をとっていくだろうと考え、その間に何が起こるかもしれないということを考えていませんでした。
生きることがどんなに幸せか、“命を最大限生きる”、この言葉にグッときました。
何があろうと、自分が悔がないよう命を最大限生きよう、生きたいと感じました。
相手の気持ちを思い遣る大切さ、心の練習、これをもっと考えていきたいです。

・今日初めてこの授業を受けて、先生の言葉を聞いて、私自身考えさせられたり、感動したりしました。
高校と大学の違いもとても納得するものでした。
自分で考える力、思いやり、心の練習について聞いて、そういう考え方もあるんだということや、自分にはまだまだ足りないことがあると改めて思ったりしました。

・今日の授業で先生が言っていたことに対して自分に足りないこととか、考えたこととか、感じたことがいっぱいあり過ぎて、どのように表したらいいのか分からなくなりました。
大学に入ってもう半年が過ぎるけど、自分を飾らず、ありのままの自分で生活したいと思います。

・今まで物事の深い意味をあまり追求しなかった自分を反省しました。
自分自身に問いかけながら、これからの講義に望んでいきたいと思いました。

・この授業では、人として生きるということを学び、自分自身成長していきたいと思います。

まずは、一時間目から学生たちの授業への積極性を引き出せたかな？？

阿部幸泰　　（2008 年 10 月 4 日　記）